

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地		
横浜YMCA 学院専門学校	昭和51年8月16日	生井 知三	〒231-8458 神奈川県横浜市中区常盤町1-7 (電話) 045-651-5785		
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地		
公益財団法人 横浜YMCA	明治17年6月30日	理事長 工藤 誠一	〒231-8458 神奈川県横浜市中区常盤町1-7 (電話) 045-662-3721		
目 的	YMCAの特色を生かした医療分野に関する教育を行うと共に、医療施設や企業との連携により整えた授業や実習を通して、実務に関する専門的かつ実践的な知識・技術の習得し、国家資格を有した人材を養成する。				
課 程 名	学 科 名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
医療専門課程	作業療法科	4年(昼)	4935 時間 (又は単位)	—	平成17年 文部科学省 告示第170号
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技
	3075 時間 (又は単位)	660 時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	1080 時間 (又は単位)	120 時間 (又は単位)
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人	49人	6人	37人	43人	
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日	成績評価	■成績表 (有)・無) ■成績評価の基準・方法について 出席状況、授業態度、試験結果を 総合的に評価し、6割以上の評価 で単位を認定する。		
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏 季：8月10日～8月18日 ■冬 季：12月28日～1月5日 ■学 年 末：3月31日	卒業・進級条件	(進級) 当該学年で修得すべきすべての 科目について単位の修得 (卒業) 修得すべきすべての科目につい て単位の修得が認定		
生徒指導	■クラス担任制 (有)・無) ■長期欠席者への指導等の対応 担任により定期的な連絡及び保護者 を含めた面談を実施する	課外活動	■課外活動の種類 医療・福祉施設等の イベントボランティアなど ■サークル活動 (有)・無)		
主な就職先	■主な就職先、業界 医療、福祉業界 ■就職率 100% (平成30年度)	主な資格・検定	作業療法士		

<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者 9名 ■中退率 16%</p> <p>平成 30年 4月1日在学者 57名 (平成 30年 4月入学者を含む)</p> <p>平成 31年 3月31日在学者 49名 (平成 31年 3月卒業生を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由</p> <p>進路変更、学習意欲減退、出席不良</p> <p>■中退防止のための取組</p> <p>出席不良者に対し早期に面談等を実施し、個別の指導を行う</p> <p>必要に応じて家庭との連携を図り、生活指導を徹底する</p>
<p>ホームページ</p>	<p>URL:http://www.yokohamaymca.ac.jp/gakuin/</p>

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

厚生労働省認可の作業療法士養成施設として、指定カリキュラムとして示されている内容を網羅してカリキュラムとして編成する。さらに、卒業後、円滑に職業人として職務の遂行ができるよう、指定カリキュラムの範囲はもちろんその周辺知識においても必要に応じて学習に取り入れていく。

さらに職業現場で必要とされる知識・技術については、実際の医療現場における人材の専門性や、新たに必要となる実務に関する知識・技術について、職業現場との連携を保ちつつ教育課程に反映させる。そのために、業界有識者や医療施設の実務者等により組織され、年間2回実施する教育課程編成委員会での意見交換や、福祉現場の福祉現場実習先における教員の研修なども積極的に活用し、学校独自の教育課程を編成するものとする。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成31年4月1日現在

名前	所属
生井 知三	横浜YMCA学院専門学校 校長 任期1年
三浦 美紀	横浜YMCA学院専門学校 作業療法科 学科長 任期1年
加藤 玉樹	横浜YMCA学院専門学校 作業療法科 教務主任 任期1年
金山 桂	護老人保健施設 千の風・川崎 作業療法士 任期1年
奥原 孝幸	県立保健福祉大学 リハビリテーション学科 教授 任期1年

任期は、平成31年4月1日～令和2年3月31日とする。

(開催日時)

第1回 令和元年10月22日 16:30～19:30 (予定)

第2回 令和2年1月28日 16:30～19:30 (予定)

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

実践的専門性を身につけ、自己を援助的に用いることができるためには、特別な教育・訓練により基礎的な知識や技術、心構えを学ぶことが必要である。そのために、学内での講義と演習により、作業療法士に求められる専門的な知識と技術、専門的実践援助職としての倫理観を身につけると同時に、それを様々な医療現場で行われる個別ケアの観点から、実践の中で検証し、評価し、自己課題を発見し修正する場として、職業現場での実習を不可欠な学習と位置付ける。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習Ⅰ	実習施設を通して、これまでの学内の授業をもとに作業療法の理解を深めるとともに、学生自身の判断に基づいた主体的な行動を経験し、学生自身に求められている行動とその結果を考える機会とする。そのため少人数(1～2人)での実習とする。また、作業療法士を目指す学生として作業療法士への目的意識を再確認し、今後の学習や経験に向けてのモチベーション作りとしての機会とする。実習前後の週は、準備と整理・まとめの期間とする。	麻生リハビリ総合病院、新戸塚病院、横浜市立市民病院、横浜船員保険病院、横浜相原病院他 計13施設
臨床実習Ⅱ	2年生での見学実習の経験の上に、本格的に対象者の方と関わる実習である。2施設で実習を行うことが必須である。内容的には、評価、治療計画の立案を1～数人の対象者の方に実施し、それをレポートにまとめる。それに加えて、社会人・専門職としての考え方や行動をOTSとして経験する。	朝倉病院、神奈川リハビリテーション病院、心身障害児総合医療療育センター、吉祥寺病院、きせがわ病院他 計14施設
臨床実習Ⅲ・Ⅳ	3年間の学内授業、臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱの経験をもとに、作業療法の流れの全てを、対象者の方との関わりの中で実施する総合臨床実習である。内容は、作業療法評価、作業療法計画の立案、作業療法実施、再評価を実施する。加えて、社会人・専門職としての考え方や行動を学生として経験し、実践力を養うとともに、卒業後自立して作業療法が実施できるようになることを目標とする。	日本鋼管病院、横浜市立大学医学部附属病院、特別養護老人ホーム八色園、島田療育センター、大江病院他 計27施設

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

本校教職員研修規程に基づき、教員は専門科目の実務に関する知識・技術、その教授方法について、また多様化する学生への指導などに対する研鑽を深めるために、定期的及び継続的に研修・研究の機会を持つ。専門科目は日進月歩で変化、進化している現代では、常に研修等を通して新しい情報を収集し、職業現場をめざす学生に、時事に沿った適切な授業内容を提供することが必要である。実際に職業現場において求められる人物像を正しく理解するために現場を実際に訪問し、生きた情報を指導者が得る機会を持ち、授業の改善に役立てるものとする。

また、自らテーマを持ち、研究をすることにより、疑問や関心事を明らかにすることは教育現場を預かる教員として当然の態度であり、それを学校として支援することは理念を掲げる専門教育を行っている学校として極めて重要である。特に、現場の声が学べる現場担当者や有識者の講演会等が含まれる学会や、神奈川県作業療法士会等が実施する研修などは、指導者同士の情報交換等により授業力向上につながることから、積極的な参加を勧める。

近年特に多様化し、学生のあいだにも学力に大きな開きが見られるようになった。教員の指導力には今後ますます柔軟性が求められることから、専門分野に限らない、様々な対象者への講義・指導をも学校として研修と位置付け、学生対応や授業展開の改善に役立てるものとする。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成31年4月1日現在

名 前	所 属
加藤 智也	医療法人財団青山会 福井記念病院 元職員 任期1年
星 竜平	訪問看護ステーション みのり横浜 職員 任期1年(本校作業療法科卒業生)

任期は、平成31年4月1日～令和2年3月31日とする。

(学校関係者評価結果の公表方法) ホームページにて公表

URL: <http://www.yokohamaymca.ac.jp/gakuin/>

5. 情報提供

(情報提供の方法) ホームページにて公表

URL: <http://www.yokohamaymca.ac.jp/gakuin/>

授業科目等の概要

(医療専門課程 作業療法科) 平成31年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			哲学	・ものごとに対する見方・考え方を多角的な視点から可能にする。とりわけ、人間存在に対する見方、人間観を養うこと。 ・医療に関わる者としての「基本的な考え方」を構築し、その考え方を理論的に表現する能力を身につける。	1前	30		○		
○			心理学	心理学の基礎知識の習得を主たる目的に置く。講義を通じて各人が、自己や他者の心の動きに関心を持ち、心理学的な観点から人間理解を深められることを目指す。	1後	30		○		
○			福祉教学	青年期は人間として自分に目覚める時期。特に福祉の動きを用いず生徒の心と魂に響くことを願う。	1通	45		○		
○			社会学	作業療法は患者の社会復帰の支援を目的とする医療活動である。その活動においては、患者の人生、特に、生活歴、家族、職業、住まいのある地域に目を向けることが不可欠となる。本講義の目的は、社会学の視点から人々の生活と人々を包み込む社会を理解することである。	1前	30		○		
○			基礎科学	生物：ヒトの体のしくみを知るために、生命現象を理解し、自然界の生命体として、ヒトと自然との調和を考察する。/化学：作業療法に関する資料の化学に関する記載が理解できるようになり、正確な報告書が作成できるようになることを目指す。/物理学：作業療法に使われる技術を物理学の立場からも考えることができるようになり、作業療法に関する記述を物理学の正確な用語を使って表現できるようになることを目指す。	1通	60		○		
○			生命科学	医療科学領域の基本的学習内容として、ヒトの身体のしくみを知るために、生命現象を理解し、自然界の生命体としての調和を人体の構造と機能を関連づけて説明する。	1通	60		○		
○			情報科学	日常の授業及び業務に必須なコンピュータ操作の基礎知識の習得。 パーソナルコンピュータ上で実行する、ワープロ (Word)、表計算 (Excel)、発表資料作成 (Power Point) のスキルを身に付け、各種検定試験を受験できるよう指導する。	1通	60			○	
○			ホスピタリティ論	1. ホスピタリティの概念や歴史を学習する。 2. ホスピタリティの現場への適用を考える。 3. HBS (Hospitality Based Skill) の修得をめざす。	1前	30		○		
○			レクリエーション体育	前期：レクリエーションの果たす役割を理解すると共に、幼児から高齢者まで運動を楽しく生活習慣化されるよう目指す。/後期：幅広い層の人々へ健康管理や生きがいを支援する人材として、レクリエーション・スポーツの楽しさを伝えられる作業療法士の専門家として養成する。	1通	60		△		○
合計				科目	単位時間 (単位)					

授業科目等の概要

(医療専門課程 作業療法科) 平成31年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			英語 I	中高で学習した英語（文法・発音等）を再確認しながら、平易な英語で書かれた一般的な健康や医療に関する文章を読む。読解力を養うとともに、この分野に親しみ、英語を介して知識を得ることに慣れる。健康や保健を話題とした日常的な会話を英語で交わすのに必要な表現と語彙を学ぶ。さまざまな英語表記に触れる。	1 通	60		○	△	
○			法学	社会生活における法の作用や役割を理解し、特に憲法・民法・刑法の基礎を学ぶ。	1 後	30		○		
○			経済学	最も今日的経済問題を理解し、その社会と個人の生活・生き方への影響について考える。先達の考えに学ぶ。 個人として、専門家として「温かい心と冷静な眼」を養う。	1 前	30		○		
○			社会福祉学	変化し続ける社会における、人々の暮らしに着目し、「すべての人々が安心・安全に、また生き生きと暮らし続ける」ことに、どのような困難性が起きているのか、また、それに対して社会福祉の取り組みが、どのように行われているのかを理解する。更に、今日、保健・医療・福祉はもちろん、多様な領域間のネットワークを構築しチームケアを実現することが求められており、授業の中で取り上げる様々なテーマや個別ケースにおいても、専門職として、他領域の専門職との連携の必要性やその実際について認識し、これからの専門職の在り方についての考え方に広がり促す。前期については、様々な角度から「市民生活の今」についての理解し、そこに表出している多様な福祉ニーズに気づく。	2 前	30		○	△	
○			英語 II	医療（とくにリハビリテーション分野における）英語の基礎単語の習得。 基本英会話の修得。	2 前	30		○		
○			倫理学	本格的な実習を前にして、現実的な場面における倫理の問題、とりわけ医療における倫理問題を考察する。具体的なケースを取り上げながら、人間の尊厳、人格、人権という基本的倫理学の理念を再確認する。それによって実際の問題に対応可能な能力を養成する。	2 前	30		○		
○			統計学	人間の多様な心理現象や行動の測定に不可欠な方法論と、それに関わる統計学の基礎知識を身につける。統計とは何か、数量化とは何か、統計や数量化はなぜ必要かを理解する。その上で、現象の数量化に必要な統計の基礎知識と、技法を習得する。	3 後	30		○		
○			教育学	教育関係のあり方、学校教育における課題等について考察し、営みとしての教育やその方法に関する理解を深める	2 前	30		○	△	
○			生活環境論	「人間—環境—作業」の関わりの中で、人間は生活をしている。環境がどのように人間に影響を与えながら、人間が作業遂行を行っているか理解を深める。又、人間の生涯発達の見点から、障害などを含めた人間特性の変化と人間の特性について理解を深めて、作業療法への展開を理解する。	3 前	30		○	△	
合計				科目	単位時間（ 単位）					

授業科目等の概要

(医療専門課程 作業療法科) 平成31年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			人体の構造と機能	人体の構造や行動心理が、どのような進化過程で得られてきたのかを理解する。また、姿勢や歩行動作、体温調節の詳細について、理解する。	1後	30		○		
○			解剖学	現在の解剖学は複雑多岐にわたっているが、本学での解剖学講義は、将来、医療に携わる者として基本的な知識を身につける目的で、まず、一般解剖学で人体構造の概要を理解し、次いで作業療法士という専門家として、特に運動器系に関する十分な知識の習得を目指す。	1通	240		○	△	△
○			生理学Ⅰ	OTに必要な生理学の基礎をしっかりと身につけることを目的とする。生理学Ⅰでは動物性機能を学ぶ。そのために、解剖学的知識も含め、人体各器系の動きを、自分の体に照らして実感することを目指す。	1通	60		○		
○			生理学Ⅱ	生理学Ⅰで学んだ事柄を土台として、植物性機能を学び、生物としての人間すなわちヒトが生きているしくみを理解し、作業療法を学ぶ学問的基盤を築くこと。	1後	30		○		
○			運動学Ⅰ	・生体力学の基礎知識（身体運動と力学の関係、運動の法則、重力、モーメントなど）を理解する/ ・機能解剖学および生理学を基に運動器や感覚器の構造と機能を理解する。 ・身体運動のメカニズム、とくに反射や随意運動などの運動の中枢神経機構について基礎的知識を理解する	1通	60		○		
○			生涯発達論	発達という視点から人間に対する理解を深める。 作業療法の実践の中で触れることになると思われる各種データや心理テストの基礎的な原理について学ぶ。	2後	30		○		
○			運動学Ⅱ	・運動学的分析に関する基礎的知識を身につける/ ・身体障害領域などの評価・治療への応用知識・技術を習得する/ ・具体的目的をもった運動の測定・分析の演習を通して論理的・客観的思考方法を習得する/ ・演習におけるデータを基に、その内容を整理・分析・考察しレポートする方法を習得する	2前	90		○	△	
○			医学概論	1. 医療従事者に必要な患者に接するときの心構え、マナーを学ぶ 2. 医学全体の概要を学習する 3. 現在医学が内包する問題点を考察する	1前	30		○		
○			内科学	医学的知識について学ぶ(特に頻度の高い疾患について)。	2前	30		○		
合計				科目	単位時間 (単位)					

授業科目等の概要

(医療専門課程 作業療法科) 平成31年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			整形外科学	整形外科で扱う運動器の構造と生理, 運動器疾患(外傷を含む)の病態, 症候, 診察法, 診断法, 治療法を理解する。	2通	60		○		
○			神経内科学	神経症候学を基にして、主要な神経疾患の診断、治療法、及びリハビリテーションとの関連を学ぶ。	2後	30		○		
○			精神医学	専門基礎教育科目として、精神医学を学び将来かかわるであろう多様な精神疾患についての正しい理解を得ることを目標とする。	2通	60		○		
○			小児科学	子どもを健全に育てるために、私たちはどうしたらよいのかを学ぶ。	2後	30		○		
○			リハビリテーション体育	・障害者(あるいはそれが予測される者)が身体的・精神的・社会的により良い生活を送れるように、体操やスポーツ等の展開が行われている事を理解する・リハビリテーションの概念や基本原則等の理解を基盤として、具体的援助技術や方法を学習する	2後	30		△	○	
○			臨床心理学	臨床心理学の基礎知識の習得を主たる目的に置く。講義を通じて各人が、自己や他者の心の動きに関心を持ち、臨床心理学的な観点から人間理解を深められることを目指す。	2前	30		○	△	
○			病理学概論	総論的に基本的な病気、病変の発生機序、経過、過程を理解すること。さらに代表的で重要な疾患について、その詳細を学ぶことを目的とする。	2後	30		○		
○			リハビリテーション医学	リハビリテーション医学の理念と基本を知り、医療におけるリハビリテーションの役割を理解する。	2前	30		○		
○			リハビリテーション概論	広義のリハビリテーションの世界の中で、作業療法士としての関わりを理解する。又、「障害とは」「健康とは」等を講義・体験などを通じて、患者に寄り添うことが出来る人間形成を目標とする。	2通	60		○	△	
合計				科目	単位時間(単位)					

授業科目等の概要

(医療専門課程 作業療法科) 平成31年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	96配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			公衆衛生学	1. 理念としてのプライマリーヘルスケアとヘルスプロモーションを理解する。2. ペッテンコーヘルから始まる環境衛生学から、地球環境を考える理念への拡がりを理解する。3. 産業革命以来人類が犯してきた過ち、原発事故に至る環境汚染への取り組みを理解する。4. 現代の潮流である疫学の基本的手法を理解する。	3通	45		○		
○			関係法規	臨床家として現場に出る前に、関係のある法律を学ぶことが目的です。	4後	30		○	△	
○			作業療法概論	・作業療法について、その概要を理解する ・作業療法の起源や歴史の理解を通して、その真髄に触れる ・作業療法士に対する興味や関心を高め、職業人としての倫理観および役割や責任感など在于るべき姿勢を学び取る	1通	60		○		
○			基礎作業学実習A	作業療法の臨床における作業種目の一つである、革細工を体験・学習する。作品を完成させる過程において、革の特性や革細工（作業）の臨床応用についての視点を学び、基礎作業学の基礎を身につける。	1後	30		△		○
○			基礎作業学	作業療法を実践する上で欠かせない「作業」について、様々な観点から説明することができることを目的とします。この授業を通して、作業活動の理解と治療に応用する要因を明らかにしていきます。	2通	60		○		
○			基礎作業学実習B	作業療法の臨床における作業種目である、園芸、タイル、陶芸を体験・学習する。作品を完成させる過程において、作業の特性やその作業の治療的応用についての視点を学び、基礎作業学の基礎を身につける。	2前	60		△		○
○			基礎作業学理論	作業療法が用いる「作業」とは何でしょう？基礎作業学を学び終わり、治療学を学んでいる今、改めて考えてみましょう。作業学から発生した理論としてカナダ作業遂行モデルについて体験を通して学んでいきます。	3前	30		○	△	
○			作業療法学研究基礎Ⅰ	作業療法士として必要となる問題解決能力（思考力、判断力、表現力など）を育む。能動的な学習態度を身につける。	1通	60		○		
○			作業療法学研究基礎Ⅱ	コミュニケーション技能の獲得に向けた基礎的な学力、技法、習慣性を養うことを目的とする。	2通	60		△	○	
合計				科目	単位時間（単位）					

授業科目等の概要

(医療専門課程 作業療法科) 平成31年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			身体障害の評価学Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・「評価」の概要について理解する ・作業療法における評価の位置付けを理解する ・評価にあたって必要となる、情報収集の方法について理解する 	2通	60		○	△	
○			身体障害の評価学Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じた評価方法について、具体的手順を理解する ・評価手順の実施にあたり、正確な技術を習得する ・評価結果について、適切な記録方法を理解する 	2後	90		○	△	
○			身体障害の評価学Ⅲ	<p>障害者への日常生活への援助を作業療法士が行うための生活の基本的とらえ方、生活課題の分析方法について基本的知識を得る。</p> <p>日常生活活動は、全ての人が毎日繰り返し行っている活動であり、作業療法治療において対象者に獲得させる目標である。この授業では、日常生活活動を送るために必要な能力、日常生活活動の構成要素、対象者の日常生活活動能力を客観的に評価する手法および治療方法について学ぶ。</p>	2後	60		○	△	
○			精神障害の評価学	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健及び精神障害者福祉について理解する ・精神障害者の歴史や現状を理解する ・精神領域における作業療法の評価について理解する 	2通	90		○	△	
○			発達障害の評価学	<p>発達障害に対する作業療法を実施するために必要な基本的態度、知識を習得する。作業遂行課題、作業遂行要素について健常児の発達を基本にして、発達障害児の評価について学ぶ。</p>	2通	90		○	△	
○			身体障害の作業療法治療学Ⅰ	<p>脳血管障害および脳外傷（以下中枢疾患）を中心に発生機序や臨床症状を踏まえ、急性期～維持期にかけての作業療法を理解を深める。症例の生活を理解し、作業遂行障害に対して、論理的に分析し、援助方法を理解、提示する。</p>	3前	60		○	△	
○			身体障害の作業療法治療学Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・一般整形外科疾患、精髓損傷、切断、末梢神経損傷などの臨床像を理解する ・上記各疾患や障害に対する具体的作業療法プログラムについて理解する 	3前	60		○		
○			身体障害の作業療法治療学Ⅲ	<p>整形外科疾患。特に手の外科分野における疾患に対し、発生・受傷機序、臨床症状、手術方法などを踏まえて、ハンドセラピーの理解を深める。</p>	3後	30		○		
○			身体障害の作業療法治療学Ⅳ	<p>関節リウマチなど骨関節疾患、心疾患・呼吸器疾患・糖尿病・悪性腫瘍など内部疾患および神経変性疾患に対する身体障害の作業療法治療学を学ぶ。これらの疾患は、その疾患・障害の進行を予測し、早めに援助することが求められる。そのためには疾患に対する理解を深め、作業療法手段についてあらかじめ知っておく必要がある。本講義は上記の疾患に対する作業療法の流れと実際に関する理解を促すことを目的として行う。</p>	3前	45		○		
合計				科目	単位時間（ 単位）					

授業科目等の概要

(医療専門課程 作業療法科) 平成31年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			老年期の作業療法治療学	高齢社会の現状と作業療法の関係について理解する。高齢者に対する作業療法の過程、病期に応じた治療・援助内容について理解する。身体障害・精神障害・発達障害で学んだ作業療法の知識・技術を多角的に用い、高齢者に対する作業療法アプローチが計画できることを目標とする。	3前	60		○	△	
○			発達障害の作業療法治療学Ⅰ	発達障害に対する作業療法を実施するために必要な基本的知識、態度、知識を習得する。正常発達についてさらに深く学び、発達障害児の評価と治療について考察する。	3前	60		○	△	
○			発達障害の作業療法治療学Ⅱ	発達障害に対する作業療法を実施するために必要な基本的知識、態度、知識を習得する。Ⅰで学んだ正常児の発達を基本にして、発達障害児の評価、治療計画立案、治療法について学ぶ。	3後	60		○	△	
○			精神障害の作業療法治療学Ⅰ	精神系作業療法ではどのような関わりをしているのか。対象者の理解をもとに考えを深めます。治療的枠組みを学び、実際への応用について勉強します。	3前	60		○	△	
○			精神障害の作業療法治療学Ⅱ	・精神領域の作業療法を実施するために必要な基礎知識を復習し、障害者像をイメージできるようにする。・障害別の対象者に対する治療・評価方法を学び、より実践に近い形で応用力を身につける。・精神領域における作業療法の応用力をグループワーク中心に獲得・練習する。・回復段階に応じたアプローチとチーム医療について理解を深め、臨床での思考のプロセスをイメージすることができるようになる。	3後	60		○	△	
○			作業療法治療学演習Ⅰ	・症例課題を通じ、作業療法介入の一連の流れを理解する ・臨床実習（評価、総合）に向けての準備をする	3通	60			○	
○			作業療法治療学演習Ⅱ	精神・認知症・発達障害領域の総合的な演習を症例検討中心に演習形式で実施します。2年次までの総合的復習、作業療法における評価の位置付けを理解した上で、初期評価から治療プログラムまでをまとめ、考察します。総合的な考え方が求められるため、担当教員とのやりとりは重要です。ただし、やみくもに回数を重ねるのではなく、質的に高いやりとりを行ってください。評価実習、インターン実習につなげられるようにしましょう。評価実習終了後は、学んだ視点や考え方を振り返り、再知識化をはかります。	3後	60			○	
○			作業療法学研究A	これまでに学んできた知識・技術に最終的な再検討を加え、応用・実践力を習得する。自らすすんで疑問をもち、学習・研究する姿勢・探究心を形成する。成果として、研究論文（レジュメを含む）作成及び発表・質疑応答する。	4前	180			○	
○			作業療法学研究B	・国家試験合格に必要な、基礎・臨床医学、障害別作業療法などについての知識を再確認し強化する。・個々の学習方法について再検討し、必要に応じた修正を加える。・国家試験全員合格を目指し、個々の課題を全員で協力し補い合い、目標を達成させる	4後	150		○	○	
合計					科目	単位時間（ 単位）				

授業科目等の概要

(医療専門課程 作業療法科) 平成31年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			地域作業療法学Ⅰ	地域社会、地域での生活とは何か、また、障がいを持った人が地域で生活すること、障がいを持つ人の地域生活を支えていくとはどのようなことか、考えられるようになる。また、職業関連活動について理解し、職業とは何か自分の考えを述べる事ができる。	2後	30		○	△	
○			地域作業療法学Ⅱ	障がいを持った人が地域で生活すること、その障がいを持つ人の生活を地域で支えていく(地域生活支援)とはどのようなことか、具体的に理解でき深く考えられるようになる。また、地域生活に欠かせない職業関連活動についても深く理解し作業療法士として何が出来るのか考える事ができる。	3前	60		○	△	
○			地域作業療法学演習	障がいを持ちながらの地域生活及び職業関連活動に関する作業療法、地域生活支援をさまざまな方法で体験する中で、地域生活(しゅゆゆる地域)やその支援を実感でき、それに関して自分の考えを深める事ができることが目的である。また、評面実習での各人の経験や課題などを整理し、その後に向けて課題討議への準備性を高める。	3後	60		△	○	
○			臨床実習Ⅰ	この実習は、実習施設を通して、これまでの学内の授業をもとに作業療法の理解を深めるとともに、学生自身の判断に基づいた主体的な行動を経験し、学生自身に求められている行動とその結果を考える機会とする。そのため少人数(1~2人)での実習とする。また、作業療法士を目指す学生として作業療法士への目的意識を再確認し、今後の学習や経験に向けてのモチベーション作りとしての機会とする。実習前後の日は、準備と整理・まとめの期間とする。	2後	45				○
○			臨床実習Ⅱ	この実習はボランティア体験、見学実習の経験の上に、本格的に対象者の方と関わる実習です。内容的には、評価、治療計画の立案を1~数人の対象者の方に実施し、それをレポートにまとめます。それに加えて、社会人・専門職としての考え方や行動をOTSとして経験します。臨床実習Ⅱを履修できるかは前期の成績で判定します。万一、本単位を履修できない場合は学校にて基礎知識の再学習を行います。	3後	270				○
○			臨床実習Ⅲ	この実習は、3年間の学内授業、見学実習、評価実習の経験をもとに、作業療法の流れの全てを、対象者の方との関わりの中で実施する総合臨床実習です。内容的には、作業療法評価、作業療法計画の立案、作業療法実施、再評価を患者様へ実施します。加えて、社会人・専門職としての考え方や行動をOTSとして経験し、実践力を養うとともに、卒業後自立して作業療法が実施できるようにします。作業療法士養成課程の最終段階となります。	4通	360				○
○			臨床実習Ⅳ	この実習は、3年間の学内授業、見学実習、評価実習の経験をもとに、作業療法の流れの全てを、対象者の方との関わりの中で実施する総合臨床実習です。内容的には、作業療法評価、作業療法計画の立案、作業療法実施、再評価を患者様へ実施します。加えて、社会人・専門職としての考え方や行動をOTSとして経験し、実践力を養うとともに、卒業後自立して作業療法が実施できるようにします。作業療法士養成課程の最終段階となります。	4通	360				○
○			セミナー	社会人として、又将来作業療法士として専門職となる人間として、必要な社会技能・知識などを身につける。YMCAのホスピタリティマインドを持ち、社会人基礎力(社会人として活躍するために必要な能力)を身につける。	1~4通	240		○	△	
○			保育実習	施設訪問により実際の現場を知ることや、各段階に合わせた課題を見出し、行動目標をワーク等を行いながら考えていく。	2前	45				○
合計					72科目	4935 単位時間 (単位)				

